

2. 公務員試験を知ろう！



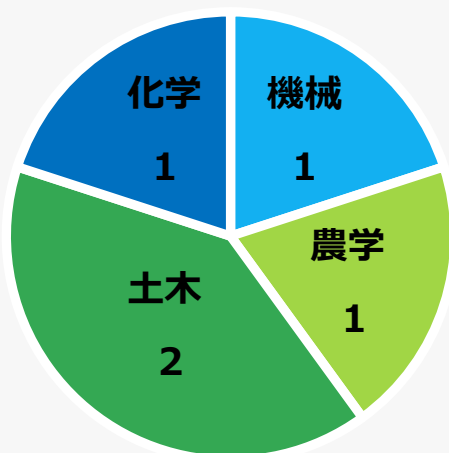
第2部．公務員試験を知ろう！

第2部では、内定者5名による国家公務員一般職試験の勉強・対策方法をお伝えします。なお、本冊子に記載している試験方法や内容は、令和5年度入省予定内定者が受けた試験について述べたものであり、次年度以降の試験とは異なる可能性があります。

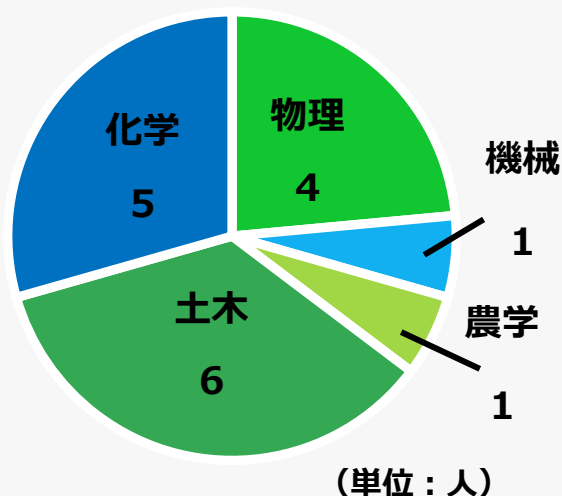
また、第1部同様に内定者5人の体験談を紹介しています。勉強方法や勉強スケジュール等については、内定者個人の見解に過ぎない点をご了承ください。あくまでも、本冊子は参考としてご覧いただければ幸いです！

□ 試験区分

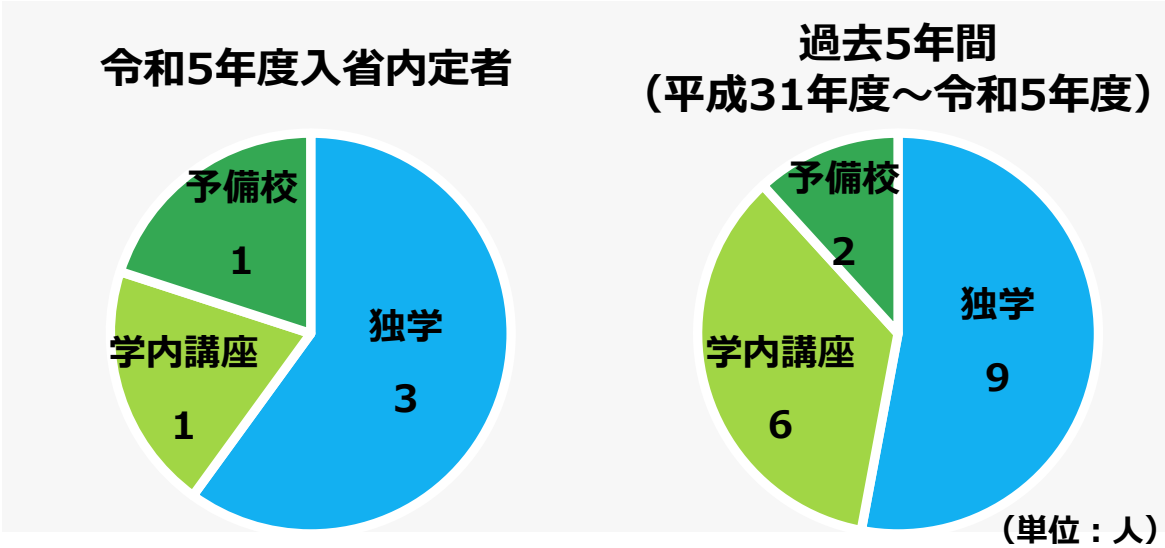
令和5年度入省内定者



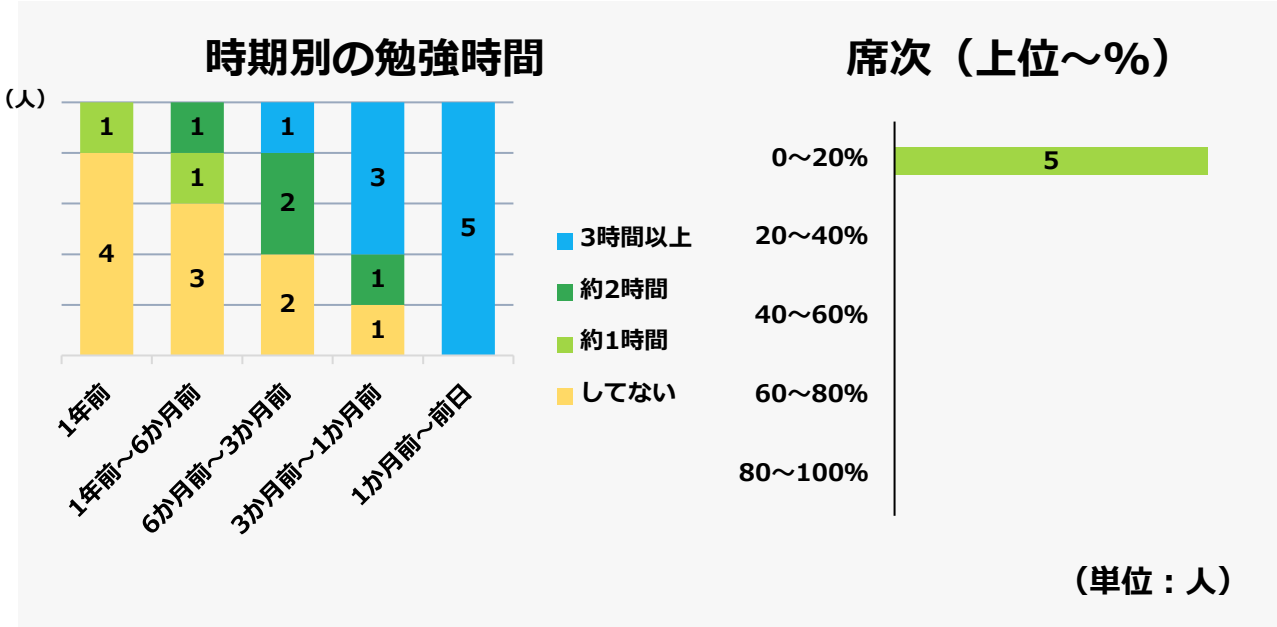
過去5年間
(平成31年度～令和5年度)



勉強方法



1次試験までの勉強時間と席次（令和5年度）



□ 国家公務員一般職試験の概要

試験区分には、専門科目による区分が存在します。また、試験は大きく2つに分けられ、「1次試験(多肢選択式試験 + 記述式試験)」、「2次試験(人物試験)」があります。これらの筆記試験の過去問は人事院に請求することで入手できます。

1次試験

基礎能力試験（多肢選択式）

いわゆる教養試験で、40題出題されます。問題は多岐に渡っており、国語力や英語力、頭の柔らかさ、知識力などが試されます。マーク式です。

専門試験（多肢選択式）

40題出題で40題解答（建築区分は33題）となっている専門区分が多いですが、選択問題を含む区分も存在するので、区分ごとによく確認が必要です。マーク式です。大学、大学院の試験や入試が選択式になっているようなイメージです。この配点が高いので頑張りましょう。

専門試験（記述式）

選択した専門分野で出題されたテーマに対し、社会的な問題等を織り交ぜて自分の意見を論ずる小論文形式の論述問題（建築区分は製図問題）です。時間は1時間です。集中力の維持と短時間での記述能力が大事になると思います。

これら3つの試験はすべて同日に行うので、長丁場の体力勝負はここから始まっているように思います。

2次試験

上記の1次試験に合格後、2次試験へと進みます。

人事院面接

当日までに面接カードを記入して、基本的にその内容に沿って質問される個人面接です。面接時間はおよそ10～20分程度で、面接官は3人です。

官庁訪問

官庁訪問

見事2次試験を合格し、最終合格した人は採用候補者名簿に掲載され、官庁訪問を受けることが可能になります！

採用候補者名簿への掲載は3年間有効なため、少しでも興味があるのなら前年度から積極的に試験を受験することをおすすめします。

官庁訪問の詳細については第3部で説明します。

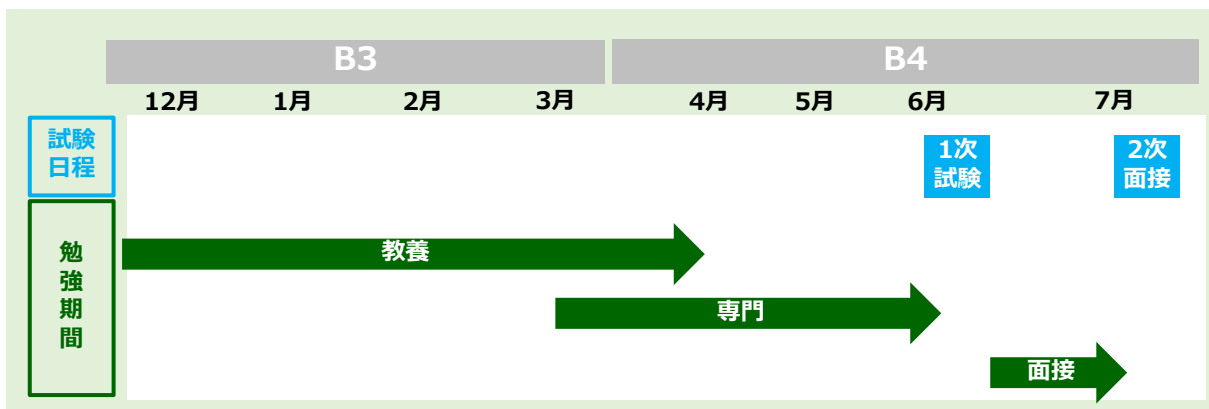
No.1 ほたる

区分：土木

合格年度：2022年度

大学：北海道/工学部/環境社会工学科

勉強スケジュール



各試験の勉強量バランス

教養 45	専門 50	論文 2.5	面接 2.5
----------	----------	-----------	-----------

大学の公務員試験対策講座で教養の対策をしました。数的処理を重点的に演習し、講座のテキストを1周してから過去問演習や専門科目の対策を始めました。総合職の試験対策が一般職にも活きましたが、もっと早く取り組んでいればと後悔しています。論文や面接は、多肢選択式の対策に手一杯で、過去問を見る程度しかできませんでした。

試験結果

席次：上

利用して良かったもの

- ・ 過去問
- ・ 『技術系公務員試験工学の基礎 [数学・物理] 攻略問題集』
- ・ 大学の公務員試験対策講座



成功談

物理が得意な友人に工学の基礎の解説をしてもらったおかげで、苦手意識が薄れるほど解けるようになったこと。人を頼るのは大事です。

失敗談



大学の講義に追われて試験対策が全体的にスローペースだったこと。一般職の試験が6月で良かったと思います。

● 各試験の具体的な対策

教養1次

大学の公務員試験対策講座を利用して取り組みました。自然科学や人文科学などの1問しか出ないけど範囲が広い科目は、講座の動画をさっと見るだけにして、問題数の多い数的処理中心に演習しました。時事に関しては、ニュースアプリをスマホに入れて読んだり、試験直前に『速攻の時事』を読んだりしていました。

専門1次（多肢選択式）

過去問演習と『スーパー過去問ゼミ 土木』『工学の基礎 攻略問題集』を使って対策しました。土木に関しての知識がほとんど無かったので、『スーパー過去問ゼミ 土木』を何周もしたり、ネットで土木の過去問解説サイトを探して解説を読んだりしていました。それで最低限解けるようにして、友人に手伝ってもらいながら工学の基礎を完璧にしようと思いました。

専門1次（記述式）

過去問を見てどんなことを聞かれそうか傾向を見たり、問題文の中で知らないキーワードを調べたりしました。多肢選択式の対策を最優先していたので、文章を書く練習もほとんどしませんでした。

人事院面接

日程の関係で官庁訪問が先にあったので、そのおかげで落ち着いて臨むことができました。

また、とにかく笑顔で堂々とハキハキ話すことが大事だと思いました。面接カードの内容からどんな質問が来るか、予測しておくのも重要です。それを逆手に取り、「この質問をさせる」ように書くこともできるかと思います。人に見てもらって研究すると良いと思います。



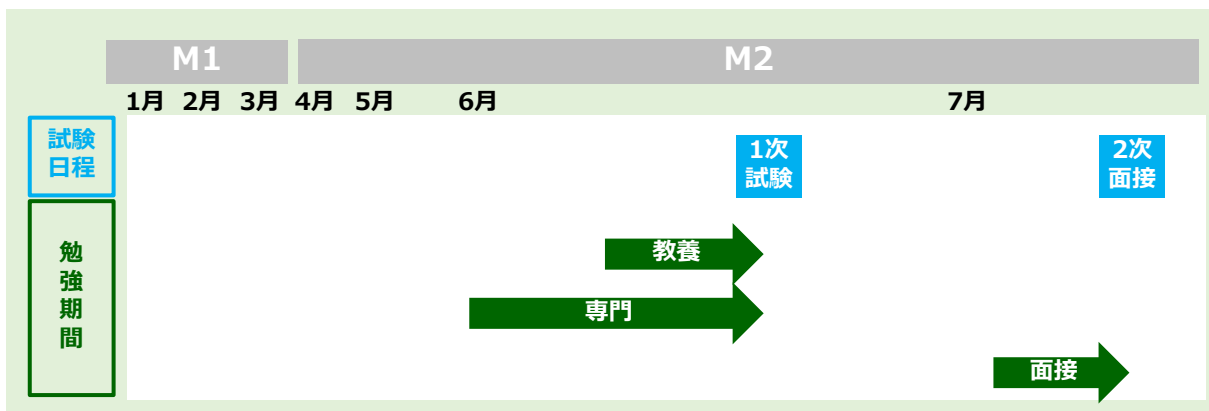
No.2 アマゴ

区分：土木

合格年度：2022年度

大学：東京都/創造理工学研究科/建設工学
専攻

● 勉強スケジュール



● 各試験の勉強量バランス

教養
20専門
78論文
1面接
1

研究室でのプロジェクトに追われており、対策時間を多く取れなかったので配点の高い専門科目に注力しました。対策には大学の授業で使った教科書、公務員試験用の問題集を使用しました。教養科目は1冊にまとめた問題集を使用しました。大学で勉強した分野がほぼストレートで出るので、問題を解きながら思い出すような感覚で勉強していました。

● 試験結果

席次：上

● 利用して良かったもの

- ・『技術系 スーパー過去問ゼミ 土木』
- ・『技術系公務員試験工学の基礎 [数学・物理]攻略問題集』



成功談

新しく何かを学ぶ・覚える必要はほとんどなく、昔の記憶を掘り起こす感覚で対策できました。学部でちゃんと勉強できてよかったです。

失敗談



当日の試験はたまたま興味を持っていた時事問題が出てうまく済みましたが、安全策として教養科目をもう少し対策しておけばよかったと思っています。

● 各試験の具体的な対策

教養1次

できるだけコンパクトに勉強したかったので、教養科目全般が一冊にまとめた問題集を使って対策していました。文章理解、人文科学は高校時代得意だったので問題なかったのですが、それ以外はコンパクトな問題集を使ったこともあって練習量が足りなかったように感じました。

専門1次（多肢選択式）

まずは何も見ないで練習問題を解いて、そのあと忘れていた箇所を教科書などでチェックした後演習問題を解き、そこでわからなかった細かい点をさらに洗い出してチェックすることを繰り返していました。構造力学、土質力学、水理学の大本の理論は身についていたので、そこから派生する公式などを確認することが大半でした。注力して取り組んだおかげで専門科目を安心材料とすることができたので良かったです。

専門1次（記述式）

過去の問題を見て、普段の研究や授業のレポート課題で出される内容とほとんど変わらないように感じたため、特別対策はしていませんでした。一点気を付けることがあるとすれば、課題へのアプローチが自由な大学と違い、行政という立場から考える必要があることだと思います。難しくはありませんが意識しておくよう注意しました。

人事院面接

先に官庁訪問を済ませていたこともあって、面接カードには官庁訪問での会話がそのまま生かせそうな項目を選んで記入しました。結果としては想定したやりとりにはなりませんが、切り込んでくる方向は違っても話すトピックは慣れたものだったので、あまり緊張せず乗り切れて良かったと思います。



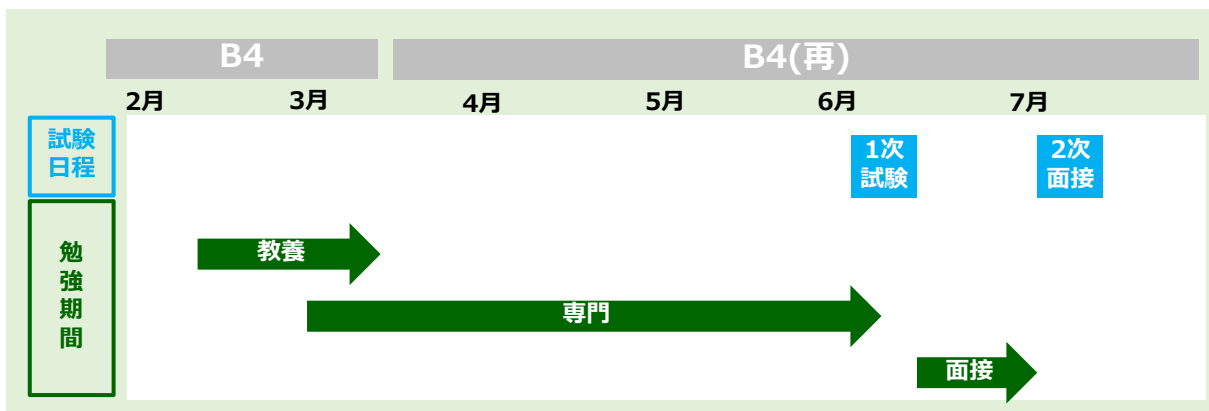
No.3 れおな

区分：機械

合格年度：2022年度

大学：兵庫県/海事科学部/海洋安全システム
学科

● 勉強スケジュール



● 各試験の勉強量バランス

教養 15	専門 82	論文 1	面接 2
----------	----------	---------	---------

大学の授業がほとんどなかったので一日のほとんどを公務員試験の勉強に費やしました。教養科目は苦手分野だけ勉強しました。専門科目はテキストを基本的に2周ほどし、間違えたところは何周もしました。論文と面接は何をしたらいいのかいまいち分らなかったの
でほとんどしていません。

● 試験結果

席次：上

● 利用して良かったもの

- ・『工学の基礎 攻略問題集』
- ・『スーパー過去問ゼミ 機械』
- ・『新スーパー過去問ゼミ 文章理解・資料解釈』



成功談

受験区分を自分の得意な分野にしたので勉強も楽しくでき、ストレスなく順調にいました。希望省庁にもよるとは思いますが得意な分野で勝負するのいいと思います。

失敗談



今まで面接というものをしたことがなかったの、練習とかをしてもらいたいと思いました。

● 各試験の具体的な対策

教養1次

理系科目は得意だったのでほとんど何もせず、文章理解・資料解釈は本当に苦手だったので足を引っ張らないよう『新スーパー過去問ゼミ 文章理解・資料解釈』を使って問題をたくさん解きました。人文科学は問題数が少ないので何もしなかったです。

専門1次（多肢選択式）

『新スーパー過去問ゼミ 機械』『工学の基礎 攻略問題集』を使ってひたすら問題を解きました。基礎はそこそこできたので1周と間違えたところを再度解き、機械のほうは初回はあまりできなかったので2周は解き、間違えたところは何回も解きなおしました。勉強効率は低かったですが時間もいっぱいあり楽しく解いていたのでいいかなと思います。

専門1次（記述式）

大学の授業で扱った時事的な工学分野の授業プリントを振り返り、どんな問題が出てきても対応できるようにしました。

人事院面接

聞かれそうな質問に対してこれだけは言いたいというワードだけをメモしておきました。あらかじめ文章は組み立ててはいましたが、それをメモに書き出してしまうと私の性格上、実際の面接で暗唱することになりますし、また質問に対して臨機応変に組み替えれるようにその文章を書き出すことはしないようにしました。



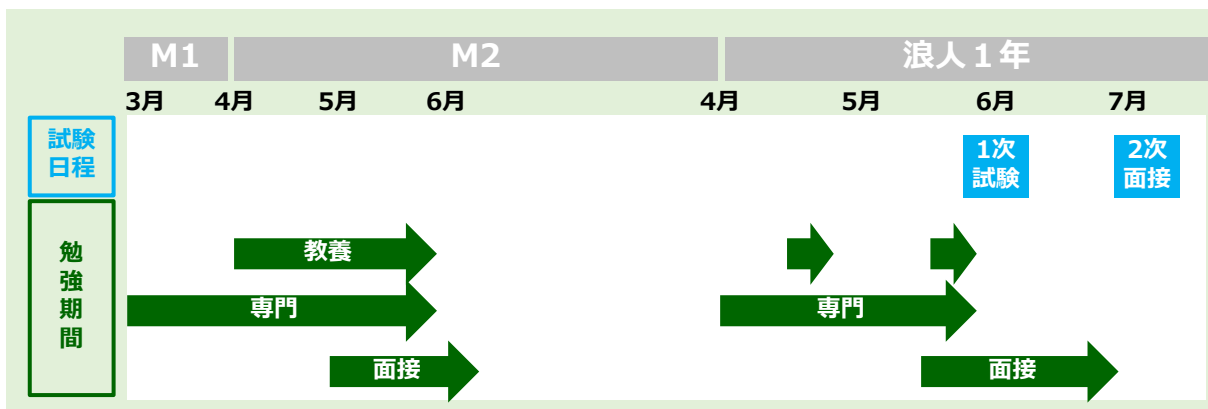
No.4 ぐったりパンダ

区分：化学

合格年度：2022年度

大学：神奈川県/理工学研究科/基礎理工学
専攻

● 勉強スケジュール



● 各試験の勉強量バランス

教養
15専門
75論文
5面接
5

M2直前に勉強開始、不合格後の休止期間を経てもう一度勉強しました。基本的には総合職試験に向けて勉強し、一般職はその流れでの受験です。教養科目と面接は直前のみ対策し、専門科目は、1次試験の多肢選択は前年一通り対策していたため、総合職専門2次試験に時間を割きました。論文は東京都の試験前日と一般職1次試験の1週間前から対策しました。

● 試験結果

席次：上

● 利用して良かったもの

- ・『新スーパー過去問ゼミ 化学』
- ・過去問
- ・『寺本康之の小論文バイブル 2023』



成功談

総合職試験の対策をしっかりとっていたこと。一般職の専門試験には余裕をもって臨めました。

失敗談



不合格だった去年の話ですが、記述試験の対策を1秒もしなかったこと。過去問を見て回答を考えるくらいはやっておくべきでした。

● 各試験の具体的な対策

教養1次

本番同様の形式で過去問を解く、というのを試験直前に計5回やりました。6～7割とれるように時間配分を決めて本番に臨みました。スピード重視で1問あたり約3分、確実に点が取れるものに時間を使うことに決めて、文章理解⑪30分、判断推理⑧30分、数的推理⑤30分、資料解釈③30分、知識分野⑬10分（○の数字は問題数）にしていたと思います。

専門1次（多肢選択式）

総合職試験の対策として、参考書で勉強＋過去問の回答作成＋復習を繰り返しました。過去問は正答番号しか公表されていないため、インターネットで見つけた個人の過去問解説サイトにたいへんお世話になりました。

専門1次（記述式）

過去問で出題傾向を把握し、回答案を作成しました。東京都の論文試験対策として、参考書を使って頻出テーマとその合格答案例を暗記していたのも良かったかも。

ちなみに、基準点に満たなかった去年は、用紙のドットを無視＆その場で思いついたことを無理やり書いた記憶があります…

人事院面接

面接カードを書き、質問を予想して返答を準備しました。面接カードに書いたエピソードについて詳細を尋ねるようなオーソドックスな質問がほとんどです。面接カードには面接官が話題を振りたくくなるようなポイントを作り、大学のキャリア支援センターなどで基本的な面接練習をしておけば十分だと思います。



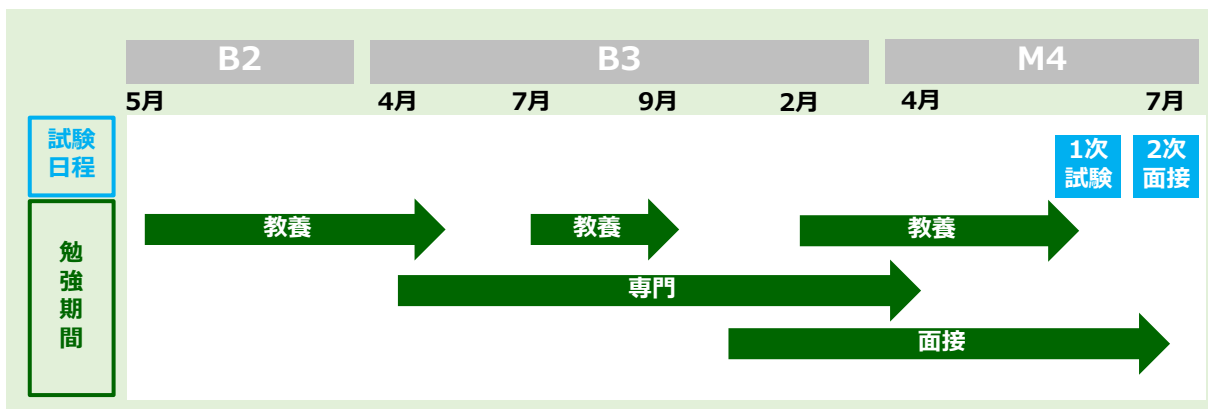
No.5 れて

区分：農学

合格年度：2022年度

大学：東京都/生命科学部/分子微生物学科

● 勉強スケジュール



● 各試験の勉強量バランス

教養
30専門
50論文
5面接
15

B2で教養科目の基礎をある程度終え、B3は専門科目にほとんどの時間を使いました。面接練習はB3の秋頃から少しずつ始め、直前期は民間企業でも経験を積みました。試験直前期に1ヶ月研究室のお休みをいただいたので、勉強系はここで追い込みました。その後4月の総合職1次試験で一旦教養科目と専門科目の勉強は終了し、論文や面接の対策に力を入れました。

● 試験結果

席次：上

● 利用して良かったもの

- ・過去問（専門科目）
- ・『公務員試験 本気で合格！過去問解きまくり！』（教養科目）



成功談

教養科目の勉強を早めに始めたこと。追い込みの時期に専門科目の勉強ばかりしていましたが、教養科目も成績をキープできました。

失敗談



過去問を見ずに試験対策を始めたこと。特に専門科目は試験に出ることが定番化している部分もあるので、非効率だったなど反省しています。

● 各試験の具体的な対策

教養1次

予備校の問題集を中心に勉強しました。数的処理は、基礎的な問題や定番の問題を繰り返し解くことに注力しました。一度解いた問題は1週間以内に解き直すと、解き方が定着しやすいです。時事問題は試験直前にテキストを読むだけでしたが、その程度ではあまり勉強の意味はありませんでした。人文科学と自然科学は特に勉強していません。

専門1次（多肢選択式）

過去問と予備校の教科書を使って勉強しました。まず、過去問の選択肢を教科書や答えをみながら検討することから始めました。そこで出てきた知識をテキストに書き込んだり、マーカーで囲って強調したりして自分用の参考書を作っていました。先に過去問を見て問題傾向を掴んでおくと、効率よく勉強できると思います。

専門1次（記述式）

記述式の試験は、専門科目の知識と論文を書く練習だけして臨みました。専門の知識は多肢選択式の勉強だけで済ませ、論文の書き方を重点的に勉強しました。論文をほとんど書いたことがなかったので、最初は解答例の文章展開を真似しながら自分の主張で論文を書き、慣れてきたらひたすら過去問を使って練習をしました。

人事院面接

大学のキャリアセンターや民間企業の面接でひたすら場数を踏み、聞かれたことのある質問には必ず答えを用意するようにしました。話し慣れたエピソードもいろんな相手に説明することによって改善点が見えてくるので、考えるだけでなく面接練習までやるというサイクルを繰り返しました。本番は面接官によって面接時間もかなり違ったので、あまり気にしすぎずにベストを尽くすことを大事にしました。

